2024年度:こども園自己評価の報告書 のばたけこども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	<p>「しなやかな心と体づくり」～一人一人が主体的で友達と関わりが豊かになる遊びや人的環境とは～を研究テーマに、子ども理解を学びそれぞれの子どものに合った関わりを職員間で共有し関わってきた。また、この遊びのどこに楽しさを感じているのか、どのような力が育っているのか等遊びの展開を探ってきた。</p> <p>日々、子ども達の気付きを大切にしてきたことで子どもの興味に応じた遊びが広がり、友達と関わって楽しむ姿が見られるようになった。その中で遊びの振り返りや話し合い活動をすることで友達の発想やアイデアなどを伝え合い遊びに生かす姿も見られるようになった。今後も子ども達の個々の遊びに注目し、職員間で課題を共有し、遊びの環境づくりや遊びを引き出す関わり等していきたい。</p>
健康支援	<ul style="list-style-type: none"> ・身体計測時に健康な生活を送るために、体の仕組みや食べ物（栄養）、プライベートゾーン、命の話をした。健康がテーマの絵本を置いて自分達でも見れるように環境を作り、保健日よりで取り組みなど配信している。 ・園内の自然環境を活かし、ロープを使って坂上りを体験したり、草むらを探検したり、戸外で自分の体を動かして遊ぶ経験を積み重ね、体幹の育ちに生かせるよう取り組んだ。
安全指導・危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具の安全管理について職員間で話し合い、子ども達と遊具の使い方について話し合いながら、安全に遊ぶことに配慮してきた。 ・毎月様々な場面を想定し、避難訓練を実施した。職員一人一人が災害時に対応できるように役割を持ち、通報訓練も毎回実施した。登園時、午睡時2次避難などの想定をして実施した。 ・防犯指導では、「いかのおすし」の紙芝居を見たり、自分の身を守るための方法を伝えたりして、防犯の意識を高められるように取り組んだ。
食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・菜園活動を通して、収穫の喜びを味わい、カレーパーティや大根や冬野菜のみそ汁などクッキングを実施した。自分達で育てた野菜の味を楽しみ、苦手野菜を食べてみる姿も見られ、食への興味関心につながった。 ・給食では、温かいご飯を提供する事が出来るようになり、量の調節を子ども主体ででき、食べきれた喜びを経験できた。
子育て支援（在園児および地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロンでの交流では、年長児が触れ合いの交流や体操、手遊び等地域の親子の前で自信をもって取り組む姿が見られた。 ・「3歳の育ちの講座」を開催し、地域の保護者へこども園の3歳児の姿や援助について知ってもらい、子育ての手掛かりとなるようにした。 ・子育てに悩み、困っている保護者に対し、相談にのり必要な機関につないだ。日頃から保護者に声をかけコミュニケーションを取る事を意識し気軽に話せる関係づくりに努めた。 ・個人懇談では、園での様子を伝えると共に子育ての相談に丁寧寄り添うように、クラス懇談会では、保護者同士で話せる時間、5歳児クラスは、就学先グループに分かれ話が出来よう工夫した。時間設定等課題はあるが、園で話すことで子育てのヒントが得られ子育てを楽しめるよう支援していきたい。 ・保護者講演会では、げんキッズの講師に親子で遊べる遊びを紹介してもらい実際に体験したり家庭同士が関わったりして遊ぶ機会となった。
インクルーシブ教育保育	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー研修で子ども理解とその関わりや遊びについて学び、日々子どもの興味関心が広がるような関わりや遊びに活かすことができた。 ・個々の好きな遊びを大切にできたことで、クラスの遊びの広がりや、友達と関わる姿につながっていった。職員間で課題を共有し支援方法を明確に保護者とも連携しながら一貫性を持った対応をした。

<p>職員の資質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー派遣研修では、集団づくり、子ども理解・即実践できるかわり・ふれあい遊びについて実践を交えて助言をいただいた。 ・年間を通して各クラスの公開保育を実施し「豊中市教育保育環境ガイドライン」を活用しながら保育環境について、職員間のそれぞれのスキルを活かしながら、話し合いを進めることができた。 ・職員人権研修では、人権保育基本方針を基に、人権を大切にする保育について学び合った。
<p>幼保こ小中の連携・接続</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保こ小連絡会では、それぞれの施設の状況を伝え合い共通する課題を確認し、後半では、実践の報告をしあいそれぞれの学校や園の取り組みを知ることができ参考になった。3園（のばたけこども園・北緑丘こども園・のばたけ保育園）交流は昨年より回数を増やして実施した。今後さらに交流を深めていきたい。 ・第14中学校の体育祭で中学生と交流、箕面高校 箕面自由学園高校の生徒と遊びや音楽を通しての交流など子どもたちの様々な経験になっている。
<p>評議員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園の様子と保護者へ発信しているドキュメンテーションをみてもらい教育保育について伝え、意見をいただき、地域の状況についても情報交換をすることができた。11月には公開保育を実施し、評議員以外の方々にも参加してもらい、様々な視点で話し合う事が出来た。 ・保護者アンケートの結果で、「子育てが楽しめない」「子育ての協力者がいない」と感じている方が増えている事を地域でも共有し、今後の子育て支援について考える機会となった。
<p>その他</p>	<p>交通安全教室、消防署交流、美化活動体験等の経験や敬老の集い、千里川フェスティバル（地域のイベント）に参加し歌やダンスを披露するなど、様々な人と関わる経験が出来た。</p>

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
<p>教育保育の質の向上 職員間の学びの共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修で得たことを実践の中で活用し子どもが主体的に活動できる環境づくりについて取り組んでいきたい。行事について、それぞれの思いや考えを出し合い保育の中で子ども達にどの様に伝えていくのかを話し合って進めていく。 ・研修報告の時間を確保し、研修に参加した職員以外に学びを広め全体の学びにつながるよう工夫していく。
<p>保護者への教育保育の発信 子育て支援 職員の質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの保育や園全体の取り組みについて、ドキュメンテーションを作成し、保護者への発信や職員間の振り返りに活用する。その際に大事にしたい視点や、見る人に伝わりやすく分かりやすい工夫をし、教育保育方針や子どもの様子等を伝えていく。 ・職員が保護者に寄り添い、信頼関係を築いて子育てを共有し、園が安心安全の場になるよう努めていく。保護者間のつながりを持てるような取り組みをしていく。 クラス懇談会の実施の仕方について検討する。

令和7年（2025年）3月31日

豊中市立 のばたけこども園

園長名 小柳 由紀